

令和2年度農業後継者育成基金事業

事業主体名 鹿児島県立鹿屋農業高等学校

1 目的

農業後継者の育成を推進するために啓発活動及び視察研修を行う。

年間計画として、1年生は営農講座(年3回)や農業大学校、農業開発センター等の視察研修(年2回)を実施する。2年生は農家委託実習(7泊8日)を行う。3年生は就農志向者研修や営農の門出を励ます会を実施する。

さらに、耕種部門は、植物の栽培管理や経営の基礎を学習するとともに、生産から流通までの6次産業化やGAP認証取得に向けた取組を応用として学ぶ。畜産部門では、家畜の飼育管理を学習し、畜産共進会や一昨年度から開催されている全国和牛甲子園への出品・参加を行い、肉質向上や優良生産者育成に努める。併せて、全学科を対象にスマート農業教育について学習を深める。

2 実施状況

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として様々な行事を中止した。この状況下ではあったが例年どおりまたは内容等を一部変更して実施した事業について紹介する。

(1) 視察研修(1年生)の実施

本県の農業の実態や農政の現状について1年次より理解を深め、農業経営者育成のために実施している。自営学科1年(義務入寮生)を対象に、1学期は県立農業大学校、県農業総合開発センター、2学期には大隅加工技術研修センター等の視察を行った。進路選択に向け具体的な目標を掲げるとともに、本県農業の実態について理解を深める良い機会となった。



(2) 農業体験学習及び視察研修(農家委託実習代替)(2年生)の実施

例年、総合実習の一環として自営者養成学科の生徒が7泊8日の日程で農家委託実習を行っているが、今年度はコロナ禍で実施ができなかった。その代替として、各学科で農業体験学習及び視察研修を実施した。農業科は専攻班ごとに農業体験及び視察研修、畜産動物学科は家畜市場で視察研修を行った。生物工学科は大隅地区の先進農家で視察研修を行った。



(3) 営農の門出を励ます会(3年生)の実施

農業大学校進学者をはじめ、農業関連の進路決定者を対象に実施している。各学科代表の抱負発表を行う。卒業生の農業に対する意識向上を図るとともに1・2年生に向けエールを送る。



3 今後の課題、取組

今年度は24名の卒業生が農業大学校や4年制大学農学部への進学、農業関連企業等へ就職した。農業と関わりの少ない生徒が入学している中、普段の授業や実習、就農促進事業や後継者育成対策事業を通して農業に対する理解を深め、就農に向けた意識向上や準備を図るの一助とする。小中学生が入学したいと思う、在校生が入学して良かったと思える魅力ある学校づくりに尽力したい。また、今年度コロナ禍で実施できなかった行事等についても例年どおりの形で実施したい。